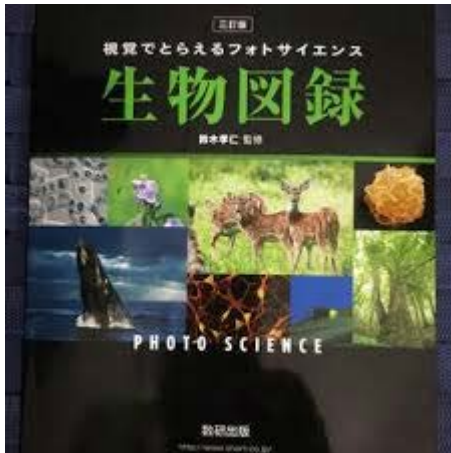


うときゅういっきの漢字夜話（ことば夜話）

2018/1/17

（虫魚鳥眼）



あるひとから「物事は虫魚鳥眼でみなさい」と教そわりました。

それを聞いて、虫と鳥は、おおよそ想像がついたのですが、魚の眼だけが最後に難問として残りました。

もう3年も前の話です。

解けそうで、解けない。やむを得ず、しばらく放っておきました。

そのうち、その疑問自体を忘れてしまいました。

ところが、今朝、風呂に入っているときに、ふと、水の中から「陸をみる」というフレーズが浮かび、続いて小学校の時の、理科の生物図鑑が思い浮かびました。

それで、

虫は草むらの中にいる。

鳥は、もちろん空。

そして、魚は陸地ではなく海の中に居る。

で、こう解釈しました。

草むらは、身をひそめる場所。すなわち、まずは「人の群れなす、そのただ中で、ひっそり息を殺して物事を」見よ。

海は、陸地とは異なる場所。つまり「外から違った目線で物事を」見よ。

そして、最後、空は、一段上の高い場所から「それらを踏まえて俯瞰」せよ。

と、なぞらえました。

「高いところから」は「上から目線」と嫌われますが、鳥の眼なら自然なことなので、問題ありません。

高い地位（ちい）からではなく反対の読み、すなわち、「いち」（位置）から、物事を「見下せ」ではなく、

俯瞰、つまり「見渡し、見通せ」だと読み替えると、うまく説明がつくような気がします。
教えてくださったその方には、今、初めて納得の上で、感謝することが出来ました。
3年遅れの感謝でした。